



夏見台幼稚園・保育園 ニュースレター 2022.5.25 号

夏見台幼稚園・保育園でのこ
わりをニュースレターにまとめます。どうぞご覧ください。
※配信停止の方はメールでどうぞ(info@treponte.jp まで)

〒273-0866 船橋市夏見台 2-16-1 夏見台幼保園

育むべきは「自律性」と「意欲」

1. 非行少年の心理

発達心理学の権威だった故藤永保先生の著書に、以下のような3択クイズがありました。みなさんは何番だと思いますか？

**拾ったお金を黙ってフコロへ
何円までなら許せるか？**

- ①非行少年
- ②同じ歳の中学生
- ③一般の大学生

**このうち最も自分に
甘かったのは誰か？**



お茶の水大学
名誉教授(心理学)
藤永保

答えは③。一番自分に甘かったのは大学生でした。非行少年(死語?)が一番自分に甘いのではないかと、という予測は裏切られます。

ただこの実験の本質は、自分に甘いか甘くないかではなく、「自律性」の問題です。

非行少年には、「この金額くらいならわざわざ交番に届けることもないだろう」という状況判断ができません。ダメなものはダメ。たとえ1円でもダメ。白か黒という直線思考です。

- ①非行少年  **でもダメ**
- ②中学生  **くらいOK**
- ③大学生  **くらいOK**

自分の中に判断基準がない、自分の頭で考えることができないから、わかりやすい「外の基準」を見つけると一気に流されます。

「友達もやってるから」「先輩がやれというから」。つまり悪に染まりやすいのです。

ところで主体性を育むことの本質は何でしょうか？私は「幸せの基準を自分自身で作ること」だと考えています。

「先生が言ったから」「親が言ったから」「マスコミが言ったから」「友達が、先輩が…」などと、基準を「外」においてばかりだとどうなるでしょうか？自分の人生に責任をもって向き合えなくなります。トラブルの際、被害者意識ばかりが強くなります。

もっとも現代は環境の変化が激しすぎます。コロナ、地震の頻発、戦争の脅威…。「こんな時代に生まれなければよかった」という気持ちも理解できます。

だからといって、「コロナだから…」「また新しい病気がはやってから…」と責任を「外」に押し付けて行動しなければ、自分を取り巻く状況は一向に変わりません。むしろ悪くなる一方です。

良いことも悪いことも、自分自身が引き受ける。少なくともその覚悟を持った子どもに育ててほしいと願います。覚悟があれば努力します。環境に応じて具体的な行動や工夫をするでしょう。すると必ず何か環境が変わるのです。

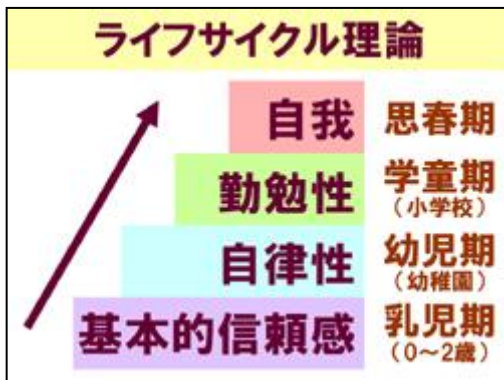
成功も失敗もあるでしょう。失敗したら、自ら省みて、再び行動を起こす。行動を継続している限り失敗はありません。

こうなると「意欲」の問題になるかもしれませんが…。

2. 自律性を育むにはどうするか？

アメリカの心理学者エリクソンによれば、人間には成長のそれぞれの時期に経なければならぬ課題があるといえます。それを1つ1つクリアすることで幸せな人生につながると主張し

ました（ライフサイクル理論）。



乳児期の発達課題は「基本的信頼感」。赤ちゃんは無力な存在です。ひとりでは何もできません。泣いて周りの大人を呼ぶことで、自分の存在を確信するといいます。

この時期にはできるだけ、子どもの要求に応じてあげることが大切です。自分の周りに信頼できる人がいるという安心感が自信につながります。

次の幼児期の課題が、今回のテーマでもある「**自律性**」です。自分で自分にブレーキをかけることです。

ちょうど幼稚園や保育園の時期に当たります。だんだんしゃべりだし、行動範囲も広がってきます。主体性も出てくる。人のマネをしたがり、競い合おうとします。嫉妬もします。反抗的にもなるでしょう。好奇心いっぱい、何でもやりたがりますが、結局は大人のようににはできません。お兄ちゃんのようににはできないのです。

そうした中で、

（今の自分に）できることとできないことを「自分で」理解していきます。

この「**自分で**」というところが重要です。いつも大人（他人）がブレーキをかけていたらどうなるでしょうか。いずれ子どもは自立します。大人のブレーキが外れるときが来る。するとブレーキが外れた車は暴走します。ブレーキは自分自身でコントロールできなければなりません。

自分の衝動をコントロールできると、

学童期(小学校)に『勤勉性』を学ぶこと

が可能になります。友だち同士での共同作業ができるわけです。こうして子どもは「社会性」を身につけます。

3. 意欲を育むにはどうするか？

習い事の前にすべきことがあります。土台となる「**意欲**」を育むことです。

意欲がなければ、そもそも行動

を起こせません。それも「外」から強制されたものでは長続きしません。自ら考えて「やってみよう！」と思える子どもに育てたいと思いませんか？

例えば「遊び」。人間には「自己原因性感覚」があります。これは「自分が変化の原因になりたい」という根源的欲求です。

赤ちゃんがはじめて床をたたいて驚く。自分が何か行動したら音が出た。自分は環境に変化を起こしうる存在であることを発見します。だからなんでもやりたがります。

そこに必要なのが「遊び・おもちゃ」。子どもの欲求に合わせて適切な遊びの環境を提供することで、子どもの自己原因性感覚が満たされ、意欲がグングン伸びていきます。

また「言葉かけ」も大切です。「指示」ではなく「問いかけ」です。「外」からの指示で行動することに慣れてしまうと、自分の頭で考えなくなります。やがて意欲がしぼんでしまいます。

「待つこと」も大切です。相手に十分な時間と空間を与え、自ら考えて行動すること。忙しい現代では難しくなっています。

その他にもさまざまありますが、夏見台幼稚園・保育園では子どもの「意欲」に焦点を当てた教育を行います。（終）

